

学校キャンプが参加児童の社会的スキルに及ぼす影響

- 性格傾向に着目して -

平井 亮司 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)
指導教員 中野 友博

キーワード：学校キャンプ 社会的スキル 性格傾向

1. 序論

キャンプは、集団で活動する場所であり、お互いに自己主張することや、他人の意見や要求を受け入れる能力が必要である。その能力を社会的スキルと言う。

また、ユング心理学では、興味関心が外界に向けられる外向型、興味関心が内界に向けられる内向型の2つのタイプに分類される。外向的な人と内向的な人とでは、感じ方が異なり、社会的スキルの変化に違いがあるのではないかと筆者は考えた。

そこで本研究では、学校キャンプが児童の社会的スキルに対して及ぼす影響を明らかにし、社会的スキルの変化は、性格傾向(外向型・内向型)により異なることを明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

【被験者】2011年11月21日から11月25日に京都市立花背山の家にて行われた、4泊5日のK小学校の学校キャンプに参加したK小学校5年生3クラス児童72名を被験者とした。

【調査方法】参加児童の社会的スキルをはかるために、嶋田らが作成した小学生用社会的スキル尺度と、参加児童の性格傾向を分類するために、ユング心理学の性格タイプ診断を基に筆者が修正したものを使用した。また、調査時期はキャンプ前(Pre)に性格傾向テストと社会的スキルアンケートを同時にを行い、キャンプ直後(Post)に社会的スキルアンケートを行った。以上の研究方法から得られた結果の分析にはIBM SPSS Statisticsを使用した。

3. 結果及び考察

1)各下位因子比較について

Pre、Post間の比較では攻撃行動因子において有意な変化が見られた。

($t=2.04, df=71, p<.0.5$)この結果の要因として、本キャンプの目的である「仲間との交流を深め、友情を育むことができる。」を児童らが理解し、相手のことを思いやる気持ちが現れたことが考えられる。分析結果を図1に示す。

2)性格傾向別の比較について

被験者の性格傾向を分類するために性格傾向テストを行った結果、外向型男子24名、外向型女子25名、外向型合計49名、内向型男子11名、内向型女子12名、内向型合計23名となった。

Pre時、Post時での向社会的スキル得点の

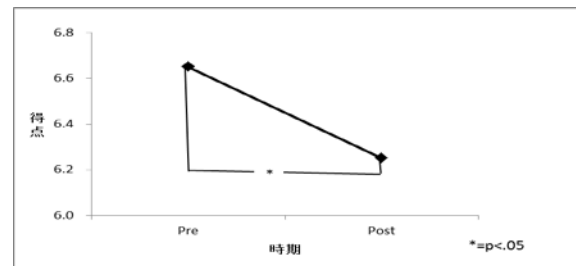


図1 攻撃行動因子の得点変化

比較では、外向型児童の方が高いという結果が得られた。(Pre: $t=-2.62, df=70, p<0.05$) (Post: $t=-3.13, df=70, p<0.05$)

また、Pre、Post間で攻撃行動因子得点の比較において有意な変化が見られた。

($t=1.10, df=48, p<0.05$)内向型児童よりも、外向型児童の方が学校キャンプでの影響を受けたと考えられ、自然の中で集団活動をするうちに、協調性を得て、他人を攻撃することが減少したと考えられる。分析結果を図2に示す。

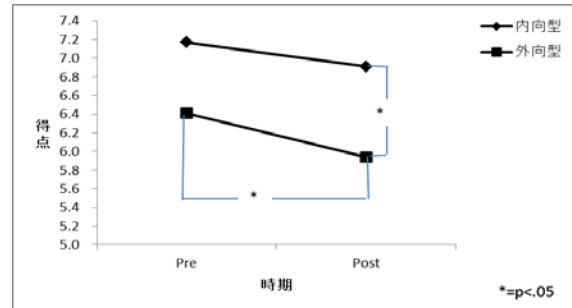


図2 攻撃行動因子の得点変化

4. まとめ

内向型児童よりも、外向型児童の方が向社会的スキル因子の得点が高く、攻撃行動因子の得点が低いことから、社会的スキルは外向型児童の方が高いといえる。また、学校キャンプの効果を得やすいのは外向型児童であり、攻撃行動因子において有意に低下したことから学校キャンプは、社会的スキル向上において有効といえる。

5. 参考文献

- 1) 秋山さとこ(1977)：性格タイプ診断、JICC 出版局
- 2) 嶋田・戸ヶ崎・岡安・板野(1996)：NCAJ キャンプのものさし、対人関係、pp28-31
- 3) 氏原寛(1999)：ユングを読む、ミネルヴァ書房、pp61-75